

柏の葉
アーバン
デザイン
センター

UDCK

Urban Design Center Kashiwa-no-ha

UDCKとは

柏の葉アーバンデザインセンター(UDCK:Urban Design Center Kashiwa-no-ha)は、柏市・柏の葉エリアを中心に、市民、行政、NPO、企業、大学(公・民・学)が連携・協働してまちづくりを考え、実践するための「組織」であり「場所」です。

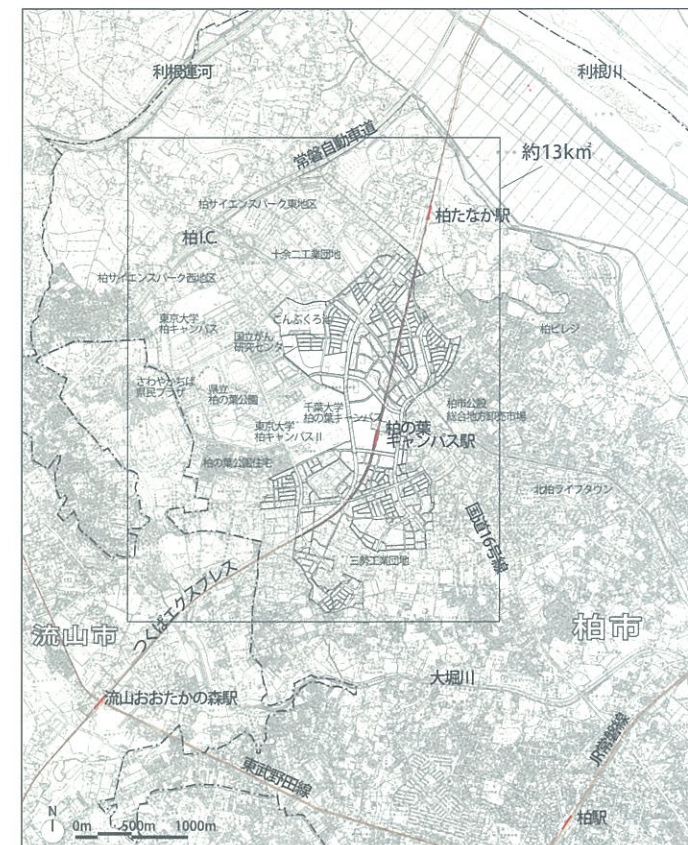
千葉県柏市北部の柏の葉エリアでは、つくばエクスプレス(TX)整備・開通に伴い大規模な都市開発が進行しています。この地において、初代センター長となる北沢猛東京大学教授(故人)の提案に、柏の葉のまちづくりに係る関係主体が賛同する形で、2006年11月、TX柏の葉キャンパス駅西口前に開設されました。以後、都市整備の進展に合わせ、空間デザインの提案・調整や様々なイベントやプログラム活動を展開してきました。2010年9月には、駅東口に移転し新施設をオープン、さらなる活動の展開を目指しています。

役割と活動

UDCKの基本的な役割は、柏の葉エリアのまちづくりの推進を図ることにあります。UDCKを主体として現在行われている活動は大きく5つに分けられます。

- 1. まちづくりの推進**
：構想の立案・推進、会議の企画・運営を通じた調整
- 2. 研究・提案**
：大学の知を活かしたまちづくりの研究・提案
- 3. 実証実験・事業創出**
：先進的な取り組みの実証実験と新規事業創出
- 4. 空間計画**
：専門性を活かした先進的なアーバンデザインの実施
- 5. 交流・学習**
：大学の知の発信、地域連携の推進、人材育成

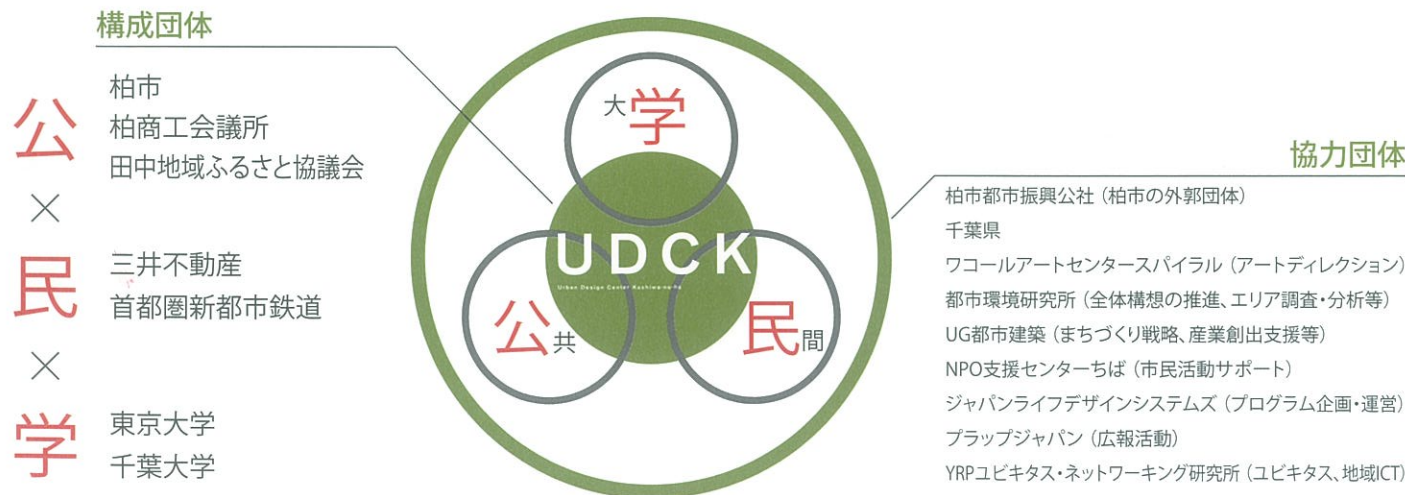
一公・民・学の連携によるまちづくり拠点



■柏の葉エリア
千葉県柏市の北部、2005年8月に開通したつくばエクスプレス沿線の約13km²のエリアです。東京都心まで約30km、電車で30分の距離に位置し、現在、沿線では大規模な土地区画整理事業が行われています。エリア内には東京大学・千葉大学のほか、国の研究機関、大規模な県立柏の葉公園等を含み、これらを活かした国際学術研究都市づくりが進められています。

組織と運営

UDCKの運営は、公・民・学の7つの「構成団体」の共同で行われており、これに、関係公共団体や各種専門企業が「協力団体」として関与しています。これらの団体の柔軟な連携によって、総合的なまちづくりを推進すべく、UDCKではまちづくりに係る専門性を持つスタッフが専任で従事し、様々な企画や運営、事業のコーディネートを行っています。



UDCK自体が新たなまちづくりの形、場所のあり方を探る実験でもあります。まちづくりの進展や活動の熟度に合わせて、自らの活動を評価・検証し、随時、変化していく柔軟な組織運営を目指しています。



研究 × 提案

Community grid & Urban Design Studio & Research project

アーバンデザインセンター研究

近年、行政による都市計画や市民の自発的な活動に加え、地域の各主体が連携し、専門家が客観的な立場から携わるまちづくりのあり方が各地で模索されています。そのような新しい形の組織や拠点を「アーバンデザインセンター (UDC: Urban Design Center)」と呼び、国内外の事例を研究するとともに、UDCK自らがモデルとなり、UDCT・UDCKo・UDCYといったネットワークを全国に広げ、社会実験を展開しています。

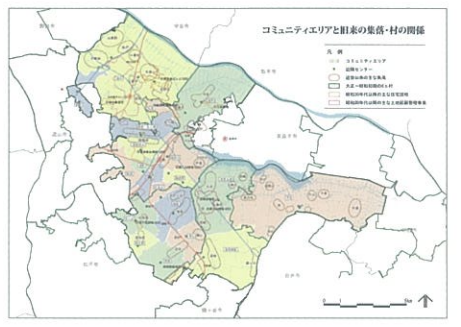
*2008年度から東京大学GCOE都市空間文化再生 (S3) 部会の枠組みで研究しています



柏の葉コミュニティグリッド研究

現在柏の葉ではハードとソフトの両面からの多様な実験的取り組みが進められていますが、これらを持続的な都市づくりにつなげていくことが今後の課題です。そこで、「まちづくりの各分野を地域スケールでつなぐ持続可能な空間計画と社会運営のシステム」を「コミュニティグリッド」と名づけ、システムのあり方及びその試案について研究に取り組んでいます。

*「2009年度千葉県持続可能な国際都市づくりのための新たな担い手育成支援事業」の助成を受け、柏の葉イノベーション・デザイン研究機構が実施しています



環境都市政策の研究

多岐に渡る環境分野を都市の視点から捉え、国内外問わず事例となる施策を規模・性質別に7分類し、「世界の環境空間計画100」としてまとめました (都市/交通/緑地/集合住宅・実験エリア/建築/技術/リサイクル/環境教育・コミュニティ)。それぞれに柏の葉への展開を踏まえ、特徴、歴史などを整理し、「環境空間計画100」としてまとめました。今後も継続的に調査研究を行っていきます。



都市デザインスタジオ

柏の葉キャンパス駅・柏たなか駅周辺地域を対象地とした、大学院のアーバンデザイン演習プログラムをUDCKで実施しています。東京大学、千葉大学、東京理科大学、筑波大学の共同演習で、多くの研究者や実務家を講師に迎え、自治体や企業とのオープンな議論を通じて、空間デザインや制度設計、未来構想力を磨きます。提案のいくつかは学生プロジェクトとして、実践に結びついています。

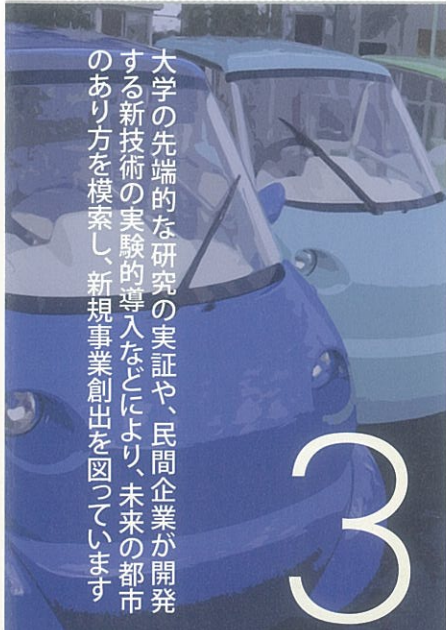


都市デザインスタジオから派生した学生プロジェクト:提案を柏の葉地域で市民とともに実践している例

- 「柏の葉ピクニッククラブ(kpc)」:公共空間をテーマにした花プロジェクト等でアーバンデザインを実施。ピクニックツールを市民と制作。
- 「みちのプロジェクト」:千葉大敷地内通路を活動が交流する場と捉え、様々な検討やワークショップを実施。
- 「セルフデザイン工房」:PLSとして実証実験中。
- 「balloon」:移動型公共機能について柏ビレジの住民と検討を継続中。

実証実験 事業創出

Mobility & Environment & Innovation



大学の先端的な研究の実証や、民間企業が開発する新技術の実験的導入などにより、未来の都市のあり方を模索し、新規事業創出を図っています

かしわスマートサイクル

次世代環境都市づくりを目指す柏の葉地域では、「自転車分担率10%増加」という具体的な目標を設定し、その実現に向けて自転車を利用しやすい環境づくりを進めています。2010年4月からは無人ポートにより、まちで自転車を共同利用する「かしわスマートサイクル」の社会実験を行っています。

* (財)柏市都市振興公社と柏市が主催し、UDCKは協力しています



公衆電源サービス

「公衆電源サービス」とは商業空間や公共空間など、まちなかに設置されているコンセントから給電を受けられるサービスです。様々な電化製品のモバイル化が進む中、新しいコンセントのあり方を通じて、近未来のライフスタイル探る社会実験を実施しています。今回供給される電力はグリーン電力を使用しています。



PLS Public Life Space -小さな公共空間-

PLS (Public Life Space) はユニットハウスを活用して新しい時代の公共空間のあり方を探る実証実験です。UDCKの敷地内にタイプの異なる実験施設を設置し、市民やアーティストによる活動、学生によるプロジェクト拠点など、試験運用を行っています。

* 柏の葉イノベーション・デザイン研究機構 (東京大学、三協フロンティア、三井不動産、柏商工会議所) が「2007年度千葉県国際学術研究拠点形成促進モデル事業」の助成を受け、設置しました



柏ITS推進協議会

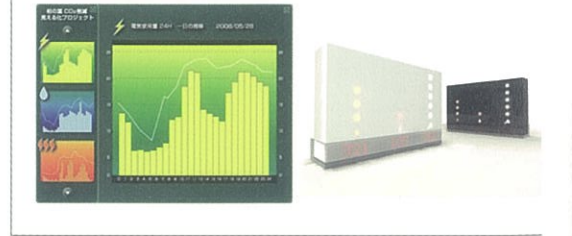
柏市が2009年6月にITS実証実験モデル都市に選定されたことを受け、「柏ITS推進協議会」が設立されました。柏の葉地区をフィールドに、ITSを活用した研究開発や実証実験が行われています。

* ITS (Intelligent Transport Systems): 「高度道路交通システム」



柏の葉街エコ推進協議会

次世代型環境都市の実現に向け、公民学連携の地球温暖化防止等に関する地域活動を普及させることを目的に、「柏の葉街エコ推進協議会」が設立され、2011年4月に一般社団法人化しました。家庭の光熱使用量をグラフ化した環境家計簿、まちのエネルギーCO₂排出量を見える化するプロジェクト等を進めています。



TXアントレプレナーパートナーズ (TEP)

多くの先端技術や先進的研究が集まるつくばエクスプレス (TX) 沿線の地域特性を生かし、筑波・柏の葉・秋葉原を核とした多くの起業家を育成・支援するネットワーク組織として、2009年11月に設立されました。日本のアントレプレナー活動の中心的役割を担いながら、海外との交流を積極的に持ち、産業の視点から地域の活性化を図っていくことを目指しています。

フューチャーデザインセンター (FDC)

小宮山宏氏 (㈱三菱総合研究所理事長) の提唱のもと、近い将来必ず世界の課題となるであろう環境・食糧・医療・教育などの国家的課題を解決するため、「先進モデル」を提示し、柏の葉キャンパスをフィールドとして実現していくことを目的に、2009年7月に一般社団法人フューチャーデザインセンター (FDC) が設立されました。第一弾として「スマートシティプロジェクト」が進められています。



大学との共同で、今後のまちづくりに係る基礎的な研究や、柏の葉のまちづくりに係る具体的な提案を行っています

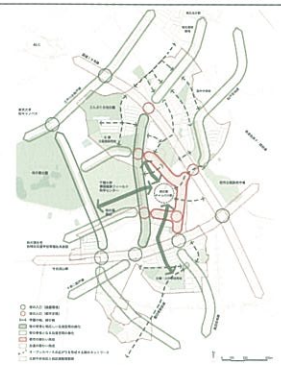
2

3

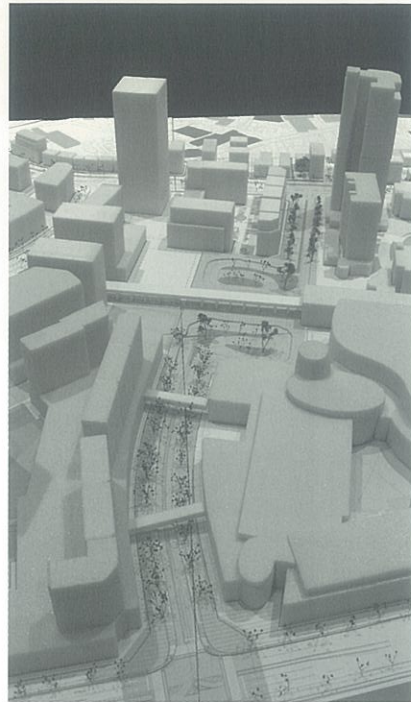
柏市北部中央地区 アーバンデザイン方針

柏の葉キャンパス駅周辺の区画整理約273haは、千葉県施行で整備が進められています。UDCKは、2007年度より県と市と協働して区画整理区域全体を対象としたアーバンデザインを検討しました。基本的な考え方となるまちづくり方針を提案し、立地・周辺環境・用途地域を勘案して、14のゾーンに区分しました。保留地を多く含む街区はモデル街区として試設計を行ない、販売条件の素案を作成しました。ゾーン別のアーバンデザイン方針や他モデル街区のデザインなど検討を進めるとともに、市民や地権者に成果を開示し、対話を始めています。

キャンパスタウンの骨格形成方針

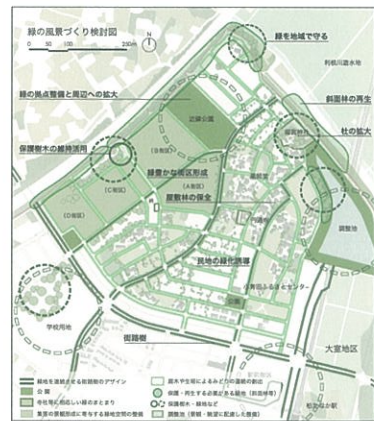


地区の特性把握・誘導方針



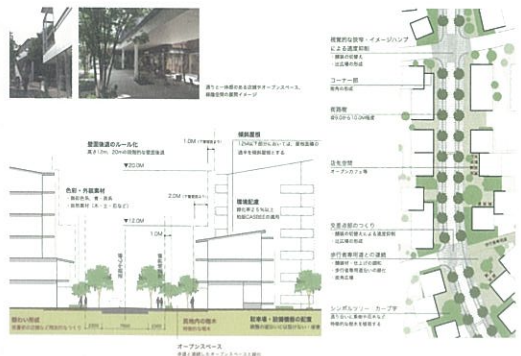
柏北部東地区 柏たなか農あるまちづくり

柏たなか駅周辺地区では、「都市農業と共存する田園都市づくり」を検討・推進するため、公民学連携のもと「農あるまちづくり実行委員会」を組織しました。農業体験農園の整備や様々な企画をはじめ、原風景を活かした景観形成(案)の検討や景観ガイドブックの作成を行いました。PLSを展開させた「環境コンビニエンスーション」は、それら一連活動の啓発・学習・体験拠点として、柏たなか駅前にて運用しています。



緑園のまちづくり

「緑園の道」は、北はこんぶくろ池公園周辺から、南は小中学校建設予定地周辺までの約1.5kmをつなぐ緑の軸として構想されたものです。2008年度は、事業施行者、管理者、UDCK、専門家がワーキンググループを組織し、街路と沿道のデザインを検討しました。2009年度からは具体的な設計を視野に詳細を検討し、関係部局との調整を図っています。こうした検討や関係者の努力によって、駅南側については区画整理の原案を見直し、街路整備の高質化が図られることとなりました。



柏の葉キャンパス駅149街区 アーバンデザイン調整

柏の葉キャンパス駅に隣接する5街区は、柏市景観形成重点地区に指定され、一体的な空間整備、良好な景観形成が図られています。数年前より柏市は149街区の共同化や協調化に向けて勉強会を行っており、2007年度よりUDCKも検討に加わっています。まちづくり基本方針を検討し、街並型建築の実現、協調型の街区形成、駅前広場と駅前東通線における緑のシンボル軸、環境共生型の土地利用と建築、エリアマネジメントの実践など、7項目を目標に挙げています。



交流 × 学習

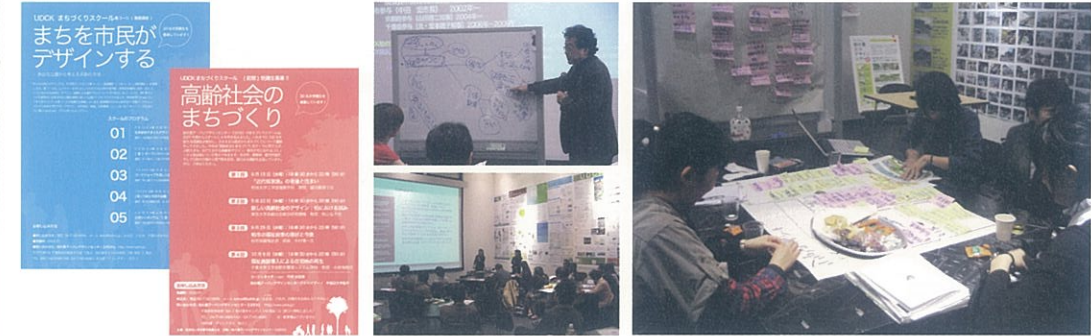
Education & Art & Communication

Active Communities

まちづくりスクール

「まちづくりスクール」は、これからのまちづくりの担い手を育てることを目標とした市民講座です。大学の教授陣やまちづくりの第一線で活動する専門家を講師に迎え、まちづくりの理論や先進的なプロジェクトについて学びます。まちづくりスクールを通じて、さまざまな分野の方が交流し、これからのまちづくりについて語り合うことで、実践的なまちづくりに繋がっていくことを期待しています。

* 副柏市都市振興公社が主催し、UDCKは共催しています



柏の葉カレッジリンク・プログラム

サステナブルデザイン学(暮らしや地域に関わる問題を俯瞰的に捉え直す学問)をテーマに、環境・健康・食の視点から、地域と大学が学び合う場であり、市民一人ひとりが暮らしを考えるプログラムです。受講生・修了生は、「かし*はなプロジェクト」等の課外活動に参加することで、新しいコミュニティや暮らし作りを実践しています。

* 千葉大学が主催し、UDCKは協力しています



柏の葉エコ・デザインツアー

「柏の葉エコ・デザインツアー」は、エコ・デザインを核とした地域の取組みをツアーで周ることで、地域の魅力を再発見し、参加者と地域を繋げていくプログラムです。環境に配慮した暮らしや工夫を楽しみながら学び、一人ひとりが日常生活の中に取り入れ、継続していくしくみです。



五感の学校

ピノキオプロジェクト/マルシェコロール/お花見ピクニック月間他

「五感の学校」アートプロジェクトは、五感に働きかける様々なプロジェクトを通じ、ひとがまちで学び・交流を楽しむ入口となっています。「ピノキオプロジェクト」は就業体験をメインとした柏の葉ならではの子ども向け教育プログラムです。「マルシェコロール」は地域が自ら運営する都市型市場の実現を目指し、地縁のある出店者が柏の葉独自の商品を生み、時にはピノキオ達も活躍しています。

* 「ピノキオプロジェクト」は'08年度グッドデザイン・キッズデザイン賞、「はっぴはっぴ体操」は'09年度グッドデザイン・キッズデザイン賞を受賞しました



まちのクラブ活動

まちが豊かになるために、住民が抱く“あったらいいな”を住民の力で実現するための仕組みとして生まれたのが「まちのクラブ活動」です。柏の葉フューチャーヴィレッジ(KFV)を拠点に、現在クラブ数は20を超え、新しい住民が地域に溶け込む入口となっています。



かし*はなプロジェクト

駅前ロータリーを花や緑で、美しく彩るプロジェクトです。車いすの方でも園芸を楽しむことができる「レイズドベット工房」や食べられる野菜を育てるガーデンなどで、ユニークな景観づくりが展開されています。

* '09年度「千葉県持続可能な国際都市づくりのための新たな担い手育成支援事業」の助成を受けて実施しています

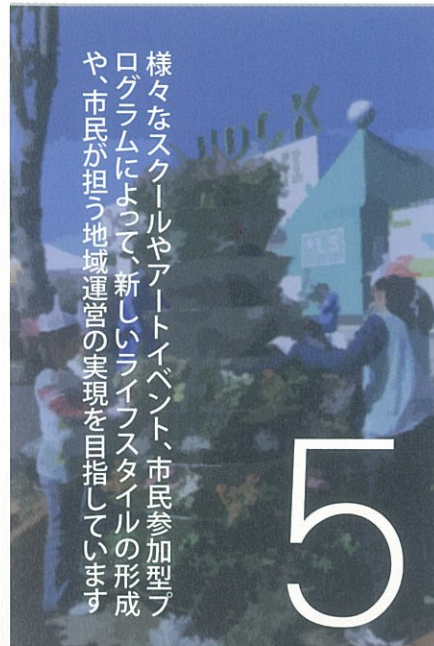


Kサロン

Kサロンと称してUDCK主催の交流会をしています。地元やTX沿線の関係者、まちづくり活動を各地で展開されている方をゲストに招き、各自の活動について話題提供し、これからのまちづくりの方向性や可能性を様々な角度から話し合っています。



エリア全体のアーバンデザイン方針を検討・提示し、公共空間デザインや街区の景観誘導等によって質の高い都市空間の形成を進めています



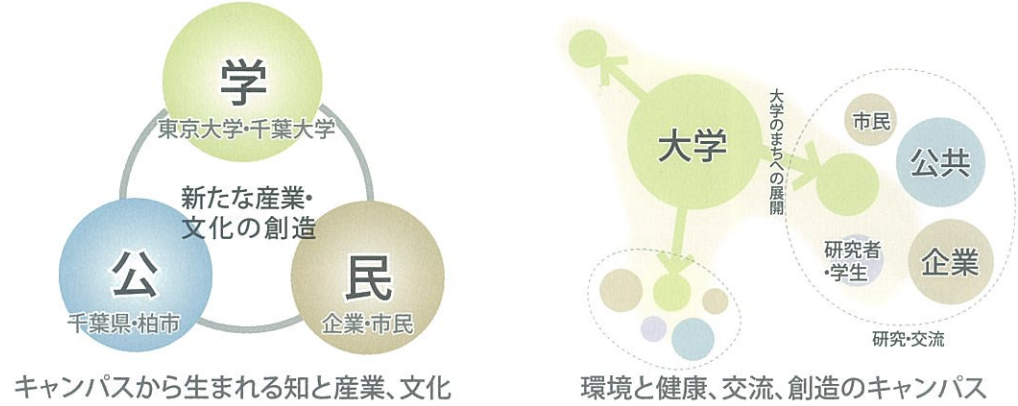
柏の葉国際キャンパスの推進

Area Design & Management

柏の葉国際キャンパスタウン構想

TX沿線地域(東葛地域)では、「環境・健康・創造・交流の街」を基本コンセプトに、国際学術都市づくりが目指されています。柏の葉エリアでは、その中でも重点的に学術研究資源の活用と国際化を推進するため、具体的な目標と方針を定めた「柏の葉国際キャンパスタウン構想」(以下:構想)が、千葉県、柏市、東大、千葉大の四者によって2008年3月に策定されました。

構想では、柏の葉国際キャンパスタウンを形成するために、公・民・学が連携し、キャンパスとまちが融和した創造的環境の中で、最先端の知・産業・文化が育まれる「国際学術研究都市」、優れた自然環境と共生し、健康で高質の居住・就業環境が実現される「次世代環境都市」の実現を理念とし、8つの目標と26の方針を掲げています。



理念	目標	方針
柏の葉国際キャンパスタウン II 公民学連携による国際学術研究都市・次世代環境都市	1 環境と共生する田園都市づくり	1 「緑地ネットワーク」を保全し強化する 緑率40%を維持 2 持続性の高い開発や建築の「柏モデル」を普及する 街区の緑化率25%、CO2削減35%を達成 3 市民生活を環境共生型に改める
	2 創造的な産業空間と文化空間の醸成	1 TX沿線の広域連携により世界水準の「100産業創出」と「10企業誘致」を進める 2 つくばと秋葉原の集積を結ぶ「TX-ナレッジネットワーク」を構築する 3 既存産業の高次化、環境改善と競争力の強化を図る
	3 国際的な学術空間と教育空間の形成	1 世界をリードする研究や教育の機能を強化する 「10の研究や教育の機関」を誘致 2 外国人の研究者や学生が暮らしやすい居住環境を整える 「1000人の外国人研究者・学生等の活動を支援」 3 柏の葉から世界の最先端で活躍する人材を育成する 4 地域と大学や研究機関との連携により独自の文化や空間をつくる
	4 サステナブルな移動交通システム	1 世界の環境交通モデルとなる移動のシステムを整える 2 歩行者と自転車の楽しい移動を可能とするネットワークをつくる 「自転車分担率の10%増加」 3 自動車利用を減らすため総合的な施策を展開する 「自動車分担率の10%低下」
	5 キャンパスリンクによる柏の葉スタイルの創出	1 健康で快適な生活空間と環境行動の「柏の葉スタイル」を定着させる 2 多様な住み方、暮らし方ができる住宅を供給する 「キャンパスリンク住宅を10%」 3 農や食の文化を育む空間と生活を充実させる
	6 エリアマネジメントの実施	1 環境・健康行動を普及し質を高めるマネジメントを行う 2 安全や魅力を生み価値を高めるマネジメントを行う 3 公民学の連携で自立したマネジメントを行う
	7 質の高い都市空間のデザイン	1 キャンパスのように緑溢れる自由な都市空間をつくる 2 大学が街へ広がる学園の道 (University Axis) をつくる 3 緑の中に多様な活動が見える緑の道 (Green Axis) をつくる 4 UDCKを中心にアーバンデザインを実現する 5 アーバンデザインを柏市域や沿線地域へ広げる
	8 イノベーション・フィールド都市	1 国際学術研究都市をアピールする 2 実証実験の支援と実現プログラムを提供する

8つの目標と26の方針

構想のフォローアップ

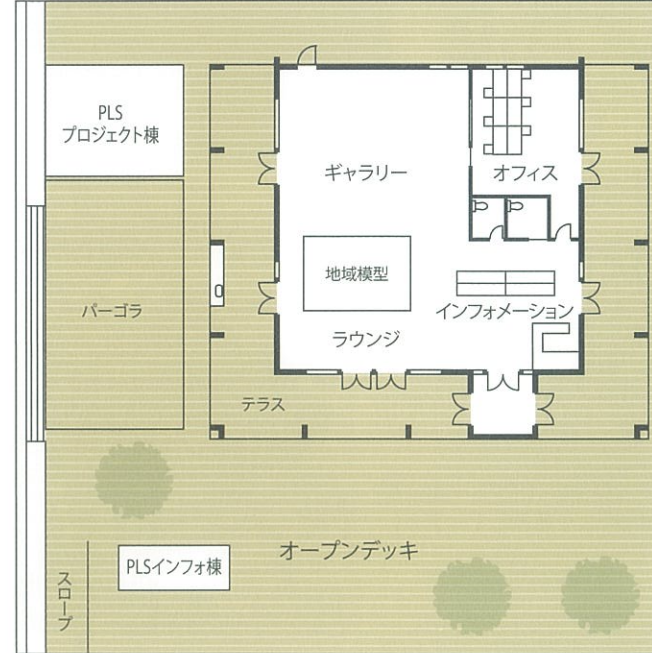
構想の実現に向けて早期に着手可能なテーマから重点的に取り組むことを目的に、2008年度には、UDCKが事務局となって、策定主体である四者によるフォローアップ体制を整えました(柏の葉国際キャンパスタウン構想委員会)。2009年度には、柏の葉エリアにおける主な事業主体であるUR都市機構と三井不動産も加わり、取り組みのテーマごとに専門部会を設置して、検討・実践が行われています。このパンフレットで紹介するUDCKの様々な取り組みも、その多くが構想のフォローアップの中で展開されているものです。

「柏の葉国際キャンパスタウン」の実現に向け、今後も意欲的な取り組みを推進するとともに、上位計画や制度へのフィードバック及び構想自体の検証を行いながら、継続的な運用を図っていきます。



施設案内 敷地面積: 約1,000㎡
建築面積: 約300㎡ (屋内面積約230㎡)

施設自体が様々な新しい技術を取り入れています。建物本体は2×4工法を用いた木造大空間建築で、防火地域における国内初の試みとして、三井ホームの協力を得て建設したものです。



インフォメーション

各種プログラムや実証実験の受付を行うほか、地域の情報パンフレット等が集められています。

ギャラリー
約140㎡ (15m×9.5m) 天井高4m

ワークショップやフォーラム、企画展にもフレキシブルに対応できる大空間です。柏の葉キャンパスエリアの模型と案内モニターを常設し、今のまちの姿やまちづくりの取り組み、まちの将来像を知ることができます。



オープンデッキ

屋外スペースは、ヒートアイランド緩和効果の実験として、林野庁の補助金を受け、国産材のウッドデッキとクールミスト付きのパーゴラを設置しました。テーブルと椅子が用意してありますので、ちょっとした休憩、持ち込みの飲食、待ち合せ等にも自由にご利用ください。イベント利用も可能です。



インフォメーション

スタッフのワークスペースで、千葉大学監修のケミレス建材を使用しています。オフィス家具は岡村製作所の協力のもと、LED照明を用い、照度や色温度をプログラミングによって自動調光する次世代型システムを取り入れたものです。



運営スタッフ

2011年4月1日現在

センター長
出口敦 (東京大学教授)

副センター長
上野武 (千葉大学教授)
猿渡久人 (柏市企画部長)
清家剛 (東京大学准教授・センター長代理)
三牧浩也 (東京大学非常勤講師・UDCK専任)

ディレクター
岡本祐輝 (柏市都市振興公社) [施設・企画運営担当]
田口博之 (柏市都市振興公社) [都市設計担当]
日高仁 (東京大学特任助教) [東京大学担当]
鈴木弘樹 (千葉大学助教) [千葉大学担当]
宮奈由貴子 (NPO支援センターちば) [市民活動担当]
小林正史 (プラップジャパン) [広報活動担当]
小山田裕彦 [アート・コミュニケーション担当]
後藤良子 (TEP事務局) [産業・創造担当]

アドバイザー
栗生明 (千葉大学教授)
前田英寿 (芝浦工業大学教授)
丹羽由佳理 (東京理科大学助教)

創設者
北沢猛 (アーバンデザイナー)

柏の葉アーバンデザインセンター [UDCK]

〒277-0871
千葉県柏市若柴184-1 柏の葉キャンパス駅前149-13
Tel 04-7140-9686 Fax 04-7140-9688
お問合せ info@udck.jp

利用時間: am10:00—pm7:00
休館: 12月26日—1月7日
入場: 無料

